

自 然 の 中 へ

《 第 7 集 》

岸和田健老大学 歩 こ う 会

「自然の中へ」第7集

目次

- 〈序文〉玉手箱の救い
正井学長…………… 2
- 例会記録 120回~141回…………… 5
- 「健歩証」該当者…………… 54
- 会員有志〈随想〉…………… 56

〈序 文〉

玉手箱の救い

学長 正井尚夫

浦島太郎が龍宮城の客となって3年(陸の上では300年)たったころ、彼の胸中は、どうしようもない空しさに閉ざされていた。宮殿には芳醇な美酒も豪華な料理もふんだんにあった。豊満な肉体を持った乙姫や侍女たちのムンムンするような色香もあった。でも彼の心は重く沈んでいた。この安逸な日々が無意味性がやりきれず、額に汗して、すなどりに精を出していた昔が無性になつかしく思えてならないのであった。

ついに太郎は意を決して乙姫に帰らせてくれるよう頼んだ。「何か不満でもあるのか」と聞かれて彼は一言一言、考え込みながら答えた。

「いやいや、もったいないほど結構づくめで……でも、ワシら陸の上の人間は……なんちゅうか……苦しみみたいなものが何かないと生きていけませんのや」

乙姫は亀を呼んで送るように言いつけ、別れ際に玉手箱をくれた。「生きていく希望を失ったときに、あけなさい」とのことであった。

陸に帰った太郎は再び漁師にもどったが、しばらくすると、深刻な孤独感に苦しみ始めた。なにしろ300年もの後の世に帰ったのである。村の事情も人の考え方もまるっきり違っているし、言葉もろくに通じないので

ある。村人たちは、彼をよそもの扱いして、かかわりを持つことを避け、子供たちは遠くからその姿を見かけただけで逃げ出した。彼は村八分にされたのである。

絶望した太郎は、ある日、海に向かって乙姫の名を呼びながら玉手箱に救いを求めた。ふたを取った瞬間、一条の白い煙が立ち昇った。それを一息吸うやいなや、身も心も急になえるのを覚えて、へなへなど、その場に膝をついた。と同時に彼の胸からあらゆる苦悩も悲哀も消え去った。ブルツと身震いしたかと思うと、その股間から大量の液体がしたたり落ちた。彼は意味のないことを口走りながら、ぬれた砂浜の上をはい回っていた。

× × ×

「歩こう会」の健老たちは、なぜ山に登るのか。それは第一に、そこに心身を労する行があるからである。第二に、そこに心温かな仲間との共感があるからである。つまり、そこに玉手箱をあけないですむ生きがいがあるからである。

例 会 記 録

第120回～第141回

- | | |
|-----|-----------------------|
| 120 | 久米田寺 — 緑と太陽の丘 |
| 121 | お菊山 — 金熊寺 |
| 122 | 笠置, 柳生の里 |
| 例会外 | 東海自然歩道④ (花の寺 — 嵐山) |
| 123 | 神 於 山 (わらび狩) |
| 124 | 葛 城 古 道 |
| 125 | 緑と太陽の丘 (岡山御坊跡 — 太陽の丘) |
| 126 | 友 が 島 |
| 127 | 犬 鳴 山 |
| 128 | 平井峠越え |
| 129 | 深 日 — 淡 輪 |
| 例会外 | 東海自然歩道⑤ (鞍馬 — 大原) |
| 130 | 黒鳥公園 — 葛葉稲荷 |
| 131 | 東海自然歩道⑥ (清滝溪谷) |
| 132 | 高 野 山 (高野三山) |
| 133 | 葛 城 登 山 |
| 134 | 大野あみだ寺 |
| 135 | 泉佐野名所巡り |
| 136 | 松 尾 寺 (納会) |
| 137 | 水 間 寺 |
| 138 | 阿間水滝 — 泉光寺 |
| 139 | 雨 山 城 趾 |
| 140 | 河 合 |
| 141 | 金 熊 寺 |

第120回例会 昭和60年2月24日(日)
天候・気温 晴 7°C

◎ 行先 久米田寺—緑と太陽の丘 10km 担当チーム A組

◎ 参加人員 28名

◎ コース 福祉センター—久米田寺—黄金塚—緑と太陽の丘
—北阪バス停

○ 行程記録

8.30 福祉センター出発

9.23 久米田寺 17分間休憩

10.05 黄金塚

10.45 福田ミカン山にて10分間休憩

11.10 緑と太陽の丘 10分間休憩

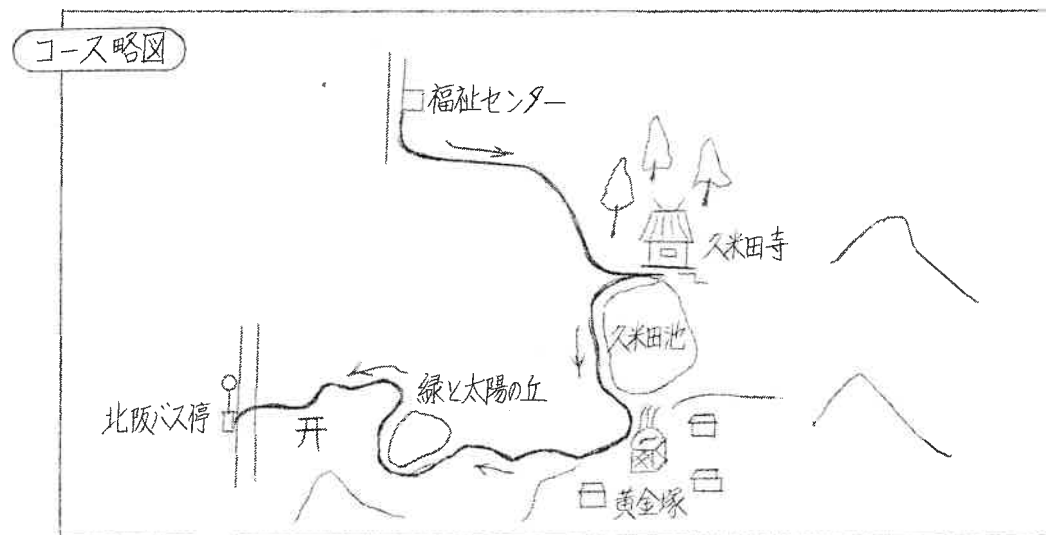
12.05 北阪バス停 解散

〔記事〕

今日は風が冷たい。弁当なしの例会も今回が一応終りとなる。その身軽さが全身で寒さを味わう仕儀となってしまった。久米田寺で5名を加え総勢28名。思ったより水量ゆたかな久米田池を半周。黄金塚は新興住宅街の一角にあり、石垣で囲まれた何とも見栄えのしない小さな塚であった。

緑と太陽の丘への途中のミカン山、遠望する市内の風景も早春の只中の感がつよい。予定した土生滝への道を北阪へ変更、バス停で「キリ」の良い120回目の例会を解散したのは12時をはんの少しまわったところであった。

参加者 赤塚 大北、加地(求)、川崎、阪森、松本、藤原、金田、柏村、加地(術)、内田、坂、高島、村上、八野(綾)、八野(昇)、森、中野、米澤、信田、矢野、山本(寛)、北沢、太地、長束、諸節、外名



(Aチーム 金田記)

第121回例会 昭和60年3月10日(日)
 天候・気温 晴一時曇 10°~4°

◎ 行先 お菊山—金熊寺 10km 担当チーム B

◎ 参加人員 31名

◎ コース 東岸和田駅—新家駅—畦の谷地藏さん—お菊山—
 —蓮信寺—金熊寺

○ 行程記録

8.23 東岸和田駅発	13.50 蓮信寺
8.45 新家駅	10分間休憩
9.40 畦の谷地藏 15分間休憩	14.20 金熊寺
途中 10分間休憩	
11.20 お菊山 10分間休憩	
11.40 林道記念碑 昼食 40分間	

記事

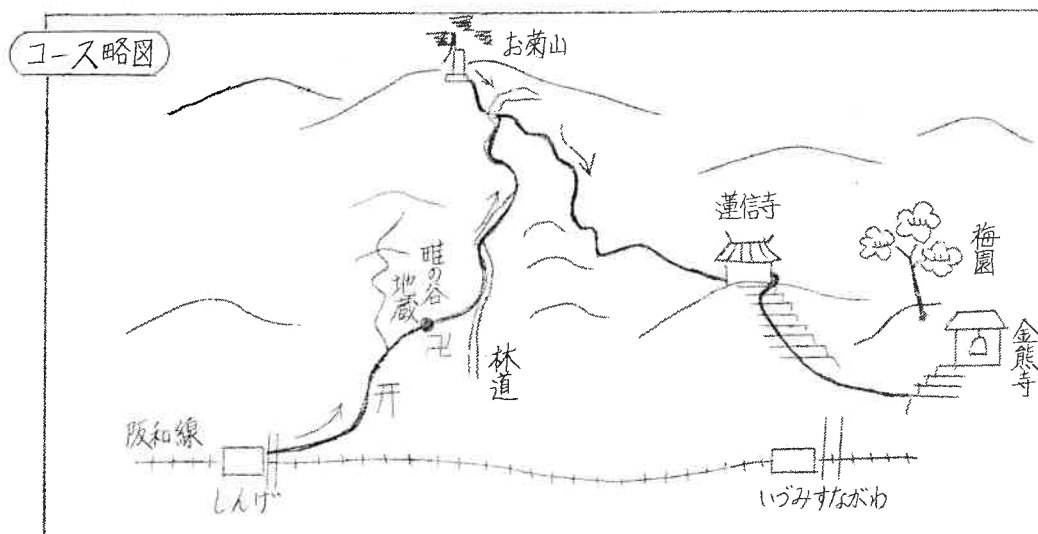
前日かなりの雨が降ったので、沢沿いの登りを変更して、畦の谷の地藏さんをお詣りした後、お堂の前を西へ。小道を抜けて林道へ出て、お菊山に向う。少し遠道にはなるがこの方が無難と考えた。この梅の季節には、第30回例会(555.2)、第50回(556.3)、第69回(557.3)と過去3回いずれもコースは変えているが金熊寺へ歩いている。

今回林道を歩いた以外は第30回の折と同じコースである。その折の参加者25名、そのうち今回も参加された方5名、しかも過去の人となられた方5名。高齢者に時の移りのさびしさをおもわずにはいられない。

そして今日も楽しく新しい顔を交えて元気に歩く。

参加者

赤塚、川崎、十和、松本、藤原、佐竹、金田、安浪、柏村、内田、
 中西、永田、奥(源)、高島、木谷(隆)、村上、八野、八野(綾)、
 小国、古江、古林、中野、清水、信田、北沢、長束、崎田、森、
 矢野、諸節、外1名



(Bチーム 諸節記)

第1スス回例会 昭和60年3月24日(日)
 天候・気温 晴 18°C

- ◎ 行先 笠置、柳生の里 12km (歩こう会 健脚阿さ) 担当チーム A
- ◎ 参加人員 30名
- ◎ コース 岸和田駅 — 新今宮駅 — 奈良駅 — 笠置駅 — 笠置山 — 芳徳寺 — 南明寺 — 山口神社 — 円成寺

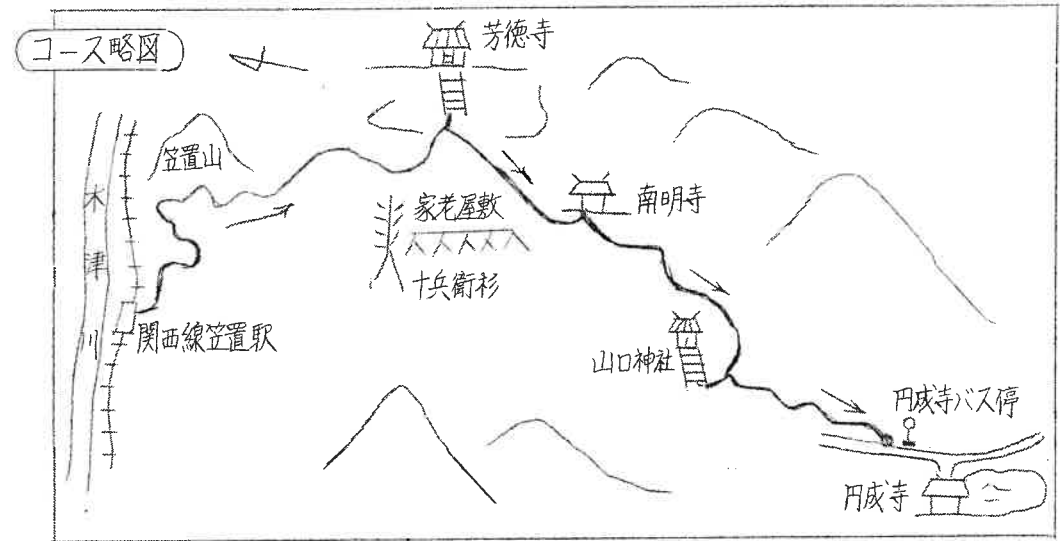
○ 行程記録

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 7.23 岸和田駅発 | 10.08 笠置寺前12分間休憩 |
| 7.57 新今宮駅発 | 11.20 芳徳寺 昼食 写真撮影 |
| 8.50 奈良駅発 | 13.10 南明寺 10分間休憩 |
| 9.16 笠置駅着 | 14.15 山口神社 10分間休憩 |
| 9.25 笠置出発 | 15.00 円成寺バス停解散 |
| 9.45 料亭前で10分間休憩 | |

記事

世間は春休みはじめの日曜で、しばらくぐずづついていた天気が今日は絶好の春らしい好天に変わった。笠置駅を出て足馴らしをする間もない程で、いきなり笠置山登りが始まった。皆さん途中の景観に目を遊ばせながら意外にしっかりと山頂へ。時間の都合で、300年前の巨岩の笠置山の信仰の跡は尋ねることが出来なかった。一路、柳生へ。予定通り芳徳寺で弁当をひらいた。落葉ジュータンの道を楽しみ、南明寺、山口神社へは舗装路をと、バラエティに富んだ例会。ついでに道に迷ったりしたが、予定時刻より少々早目に円成寺バス停に到着、解散。

参加者 赤塚、加地(栄)、川崎、十和、松本、佐竹、金田、安浪、加地(行)、内田、北口、中西、永田、坂、坂部、高島、村上、森、小国、中野、水谷(-)、清水、信田、矢野、山本(寛)、長束、山本(松)、山本(光)、諸節、外1名



(Aチーム 金田記)

例会外 東海自然歩道シリーズ④ 昭和60年3月3日(日)
 天候・気温 曇時々晴-時雨 6°~12°

- ◎ 行先 花の寺 — 嵐山 約11km) 担当チーム B
- ◎ 参加人員 14名
- ◎ コース (阪急)東向日町 バス 南春日町 — 大原野神社 — 花の寺 —
 国道沓掛 — 山田丘陵 — 浄住寺 — 苔寺 — 松尾大社 — 嵐山 —
 梅田

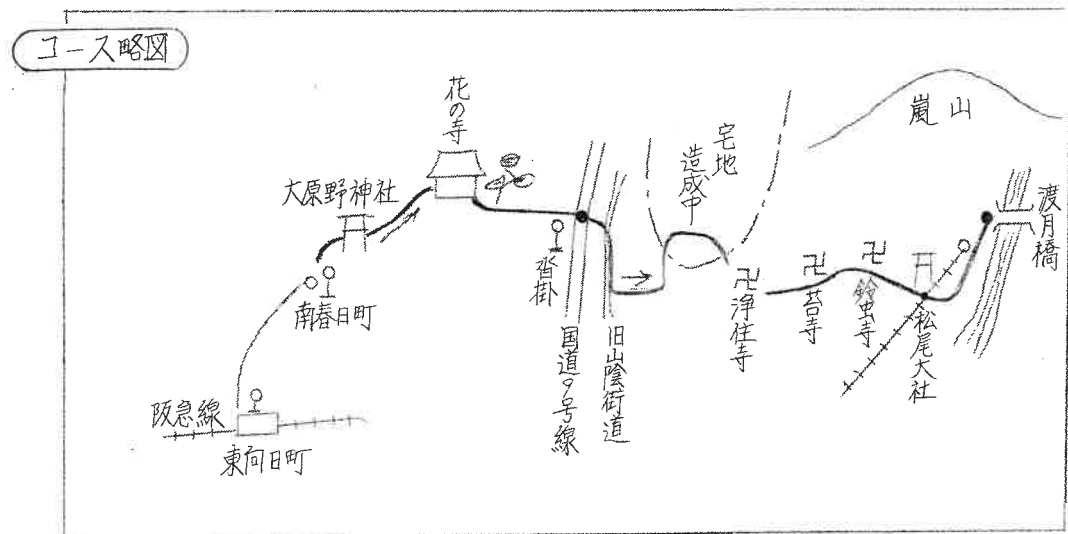
○ 行程記録

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 7.10 岸和田駅発 | 10.45 国道沓掛 |
| 9.05 東向日町 | 11.05 社前 15分間休憩 |
| 9.15 " 発(バス) | 12.30 浄住寺 昼食30分 |
| 9.33 南春日町着 | 13.50 松尾大社 20分間休憩 |
| 9.45 大原野神社 10分間休憩 | 15.00 嵐山渡月橋 解散 |
| 10.10 花の寺 | 17.00 岸和田駅 |

記 事

道標完備、魅力いっぱいの花のコースといえよう。このコースのよさとは別に思わぬほろ苦い経験もした。山田丘陵3kmの竹林の道は大がかりな宅地造成にすっかり模様がえ。しかも山陰道からの入口付近で立入禁止の表示。下見の折、了解をとり通ったこともあって、さりげなく造成中の広場へ進入、見ていた係員が車をとばして来ておし問答となる。しかし結局あきれ敬意を表して走り去った。お蔭で期待の竹林の道を山田へ。この頃から天候急変、風をともなって雨、近くの有名寺院に走りこみ、昼食。雨上りの道を苔寺から松尾大社へ。そして人出で賑う嵐山へ。桜はまださ、3分程度。渡月橋で解散。

参加者 赤塚、阪森、十和、松本、金田、佐竹、永田、安浪、坂部、高島、八野(綾)、信田、諸節、崎田



(Bチーム 諸節記)

第123回例会 昭和60年4月14日(日)
 天候・気温 曇時々晴 20℃

◎ 行先 神於山 わらび狩 11km 担当チーム C

◎ 参加人員 30名

◎ コース 福祉センター — 泉光寺 — 福田 — 国見台下 — 国見台
 — 神於寺 — 船渡バス停 — 岸和田

○ 行程記録

8.00 センター出発	12.30 国見台出発
8.45 泉光寺(10分休憩)	13.00 神於寺(40分休憩, 打合せ)
9.40 登山口(15分休憩)	13.35 同 出発
10.30 国見台下(わらび狩 時間)	14.00 船渡着 14.09 発バスで岸和田へ
11.45 国見台 昼食	

記 事

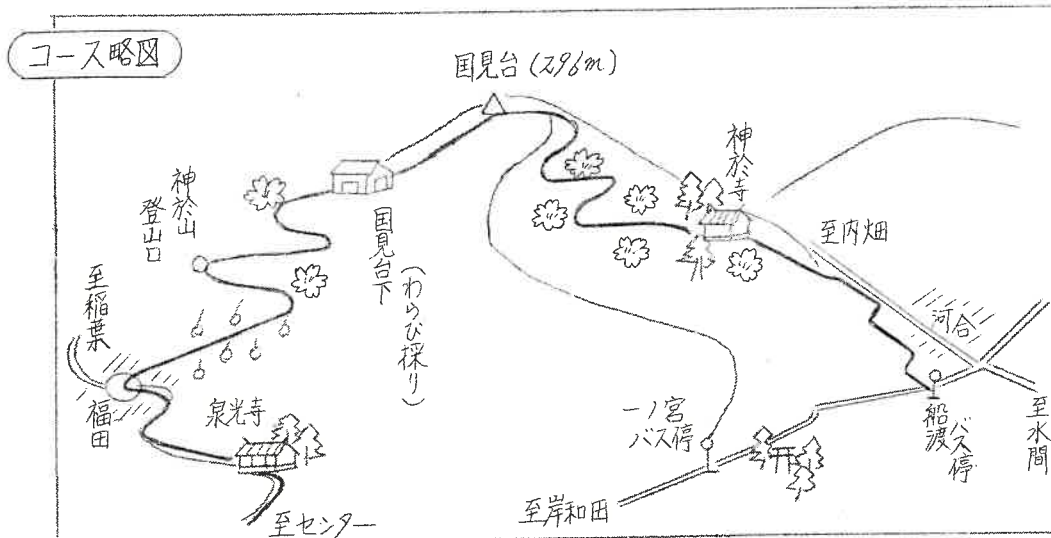
予定通り国見台下に到着、小憩のあと早速わらび採りに散る。わらびもこの頃は手当たり次第に、と言う訳にはいかないが、それでも結構美味しそうな束と手に戻る人の嬉しそうな顔々。—しきりわらび談義に花が咲く。

国見台頂上で昼食後、神於寺へ。この下り坂はまた見事な山桜が続く。風に乗って落花盛ん。道を真白にして乱れ散る名残の桜の美しさに嘆声頻り。心洗われる思いである。

神於寺で大休止。桜の下で打合せ、会計報告。次は詩吟クラブ諸兄の合吟、コーラス、今日はまた民謡まで出る憩いの—と時であった。船渡発14.09 バスで岸和田へ。

参加者

福永(寛)、森秋信、古久保絹子、赤塚、加地(栄)、坂森、松本(元)、藤原、金田、安浪、内田、北口、加地(行)、中西、崎田、奥(源)、高島、水谷(隆)、八野(綾)、小国、久保、米沢、清水、山本(寛)、北沢、大地、長束、諸節、信田、外ノ名



(Cチーム 中西記)

第1ス4回例会 昭和60年4月28日(日)
 天候・気温 晴天 20℃

- ◎ 行先 葛城古道 約11km 相当子-ム B
- ◎ 参加人員 28名
- ◎ コース 岸和田駅 — 近鉄御所駅 — 鴨山田神社 — 九品寺 —
 — 一言主神社 — 極楽寺 — 高鴨神社 — 風の森 — バス御所駅

○ 行程記録

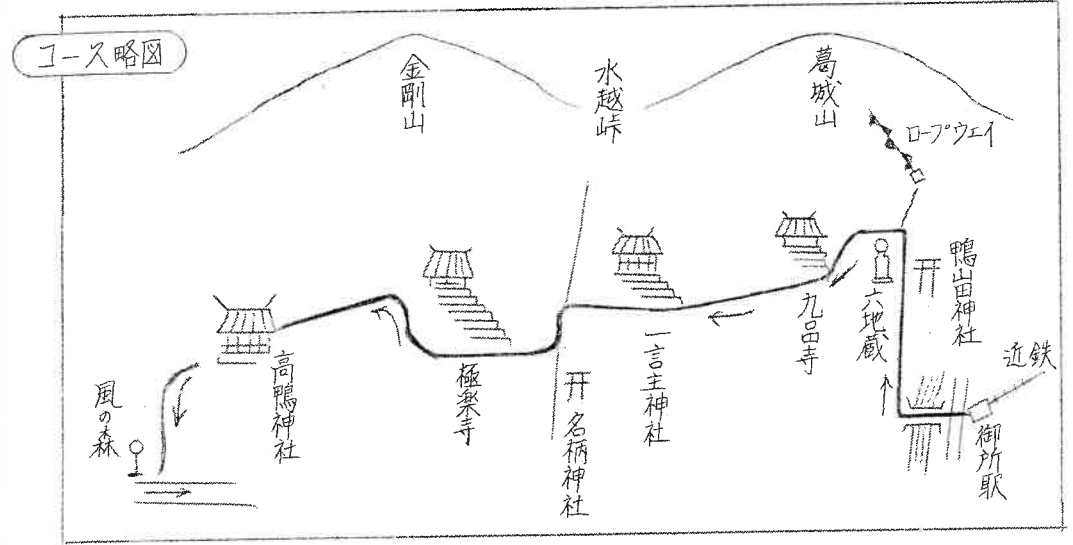
7.35 岸和田駅発	11.30 一言主神社 / 時間 昼食
8.05 新今宮	13.45 極楽寺 15分間休憩
8.34 アベノ発	14.35 高鴨神社 30分間休憩
9.20 御所駅 10分間休憩	15.30 風の森
10.00 鴨山田神社 10分間休憩	15.37 バス発車
10.35 九品寺 25分間休憩	16.08 発 御所発アベノ行

〔記事〕

五月晴のさわやかな一日であった。御所駅から南へ信号をわたって柳田川にかかる橋をわたり、堤防沿いを山手へ田舎道を猿目の穴地藏にでて四つ辻を左へとる。そこからは道標も完備、迷うことはない。

ガイドブックの一節をお借りする。葛城古道を歩くと「かたち」のある古文化財だけが犬和でないと教えられる。ほんとの犬和は風土の中に宿っているのではないだろうか。「かたち」はときとして人を威圧するけれども、葛城の古道はどこまでも軽やかで清潔であった、と。歩いてみてその思いを強くした。西の山の辺の道といわれるこの「コース」まだの人には是非おすすめしたい。

〔参加者〕 村上、大木、浅野、赤塚、大北、加地(求)、阪森、松本、佐竹、金田、加地(行)、内田、永田、崎田、奥(源)、坂部、高島、八野、大居、森、久保、中野、水谷(-)、清水、矢野、北沢、長束、諸節



(Bチーム 諸節記)

第ノ5回例会 昭和60年5月12日(日)

天候・気温 晴 28℃

◎ 行先 緑と太陽の丘 約11km 担当チーム A

◎ 参加人員 29名

◎ コース 福祉センター——久米田寺——岡山御坊跡——緑と太陽の丘
——泉光寺——福祉センター

○ 行程記録

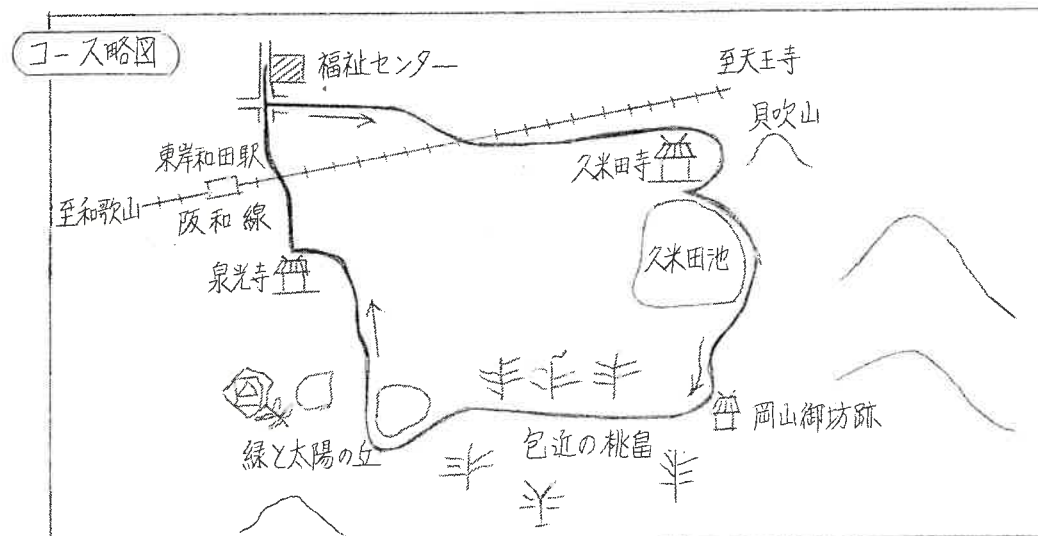
8.05 福祉センター出発	12.35 緑と太陽の丘出発
8.50 貝吹山 10分間休憩	13.20 泉光寺集会
9.10 久米田寺 15分間休憩	14.10 泉光寺出発
9.55 岡山御坊跡 5分間休憩	14.55 福祉センター
10.55 緑と太陽の丘 昼食	

記 事

桜の時期を終り只今休憩中といったようなゆとりと静けさを感じる久米田寺で7名を加え29名にふくれた隊列が、満々と水をたたえた久米田池を右手に見ながら岡山御坊跡へ向って行動したのは9.30を過ぎた真夏を思わせる程晴れ上がった暑い太陽の真下であった。岡山御坊跡から緑と太陽の丘へは暑さのせいか長い道のりに思える。

丁度バラ祭中の緑と太陽の丘は相当な人出で混雑していた。タッパリ時間をとっての昼食は限られた木陰選びから始まる。予定していた食後の集会は雑踏を避けて泉光寺でと、電車・バスの時間を心配する必要もなく終始ユッタリズムで過した。そして暑い一日を体験した。

参加者 福永、杉原、赤塚、阪森、松本、佐竹、金田、安浪、内田、西出、北口、井上、中西、奥(源)、坂、角野、高島、水谷(隆)、村上、八野(綾)、久保、中野、米沢、信田、矢野、北沢、長束、諸節、吉田(環)



(Aチーム 金田記)

第126回例会 昭和60年5月26日(日)
 天候・気温 晴 18°~26°

◎ 行先 友が島 約8km 担当チーム B

◎ 参加人員 38名

◎ コース 岸和田駅—和歌山駅—加太駅—加太港—野奈浦—虎島
 —深蛇池—野奈浦—加太港—淡島神社—加太駅

○ 行程記録

7.31 岸和田駅発急行	9.30 友が島野奈浦着 15分間休憩
8.05 和歌山駅着	10.55 虎島 15分間休憩
8.11 加太行発	11.40 昼食 60分間
8.35 加太駅着	13.10 深蛇池 15分間休憩
9.03 加太港出港	14.00 野奈浦
	14.05 出港

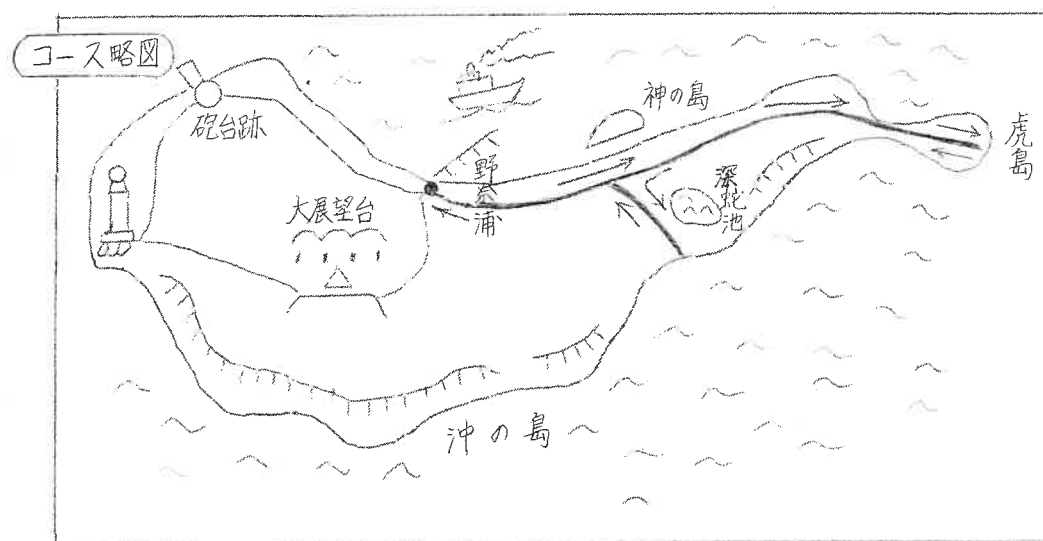
記 事

ここ二、三日梅雨入りを思わす天候であったが、今日は一転、快晴に恵まれる。今回は第75回例会の折とは反対側の虎島方面を歩く。

一回で両方のコースを歩けないこともないが、我々仲間には二回に分けた方が楽しく、また無難のようだ。閑伽井跡から虎島への、海水が足もとを洗う岩伝いや、落石注意の立札にひやひやの思いで登る小道、そして不気味に待ち構えるトーチカ跡と、西側の観光ルートにくらべると荒々しい。

東の岬付近で休憩の後、同じ道が無事芝生の踊り場まで戻ってほっとしたところで、時間もよく昼食、見晴らしも良く一等場所。その後思いがけぬ演奏会。もっと時間がほしい。戻りは深蛇池に下りて記念の写真。野奈浦では待つ間もなく出港、海上7キロ。30分の船旅を楽しんで、淡島さんに参拝後、解散。

参加者 赤塚、大北、阪森、松本、田良原、井上、佐竹、金田、安浪、内田、北口、中西、古久保、崎田、坂、坂部、瀬川、村上、八野、八野(綾)森、久保、中野、清水、信田、矢野、北沢、長東、山本(光)、山舖、諸節、吉田、森(秋)、浅野、大木、村上、外2名



(Bチーム 諸節記)

第127回例会 昭和60年6月9日(日)
 天気・気温 曇時々晴 20℃

◎ 行先 犬鳴山 約11km 担当チーム C

◎ 参加人員 スス名

◎ コース 岸和田駅 — 水間駅 — 鉅谷 — 大木 — 犬鳴不動堂 — 同バス停 — 泉佐野駅

○ 行程記録

8.02 南海岸和田駅発	12.10 犬鳴参道 昼食
8.40 水鉄水間駅	13.30 不動堂・行者の滝(休20分)
8.50 水間観音 (休10分)	14.40 犬鳴バス停 泉佐野へ
9.50 遊女千代の碑(休10分)	
11.15 大木・禅徳寺(休15分)	

記 事

水間観音を経て鉅谷へ、溪流沿いの新緑が目に沁みる。

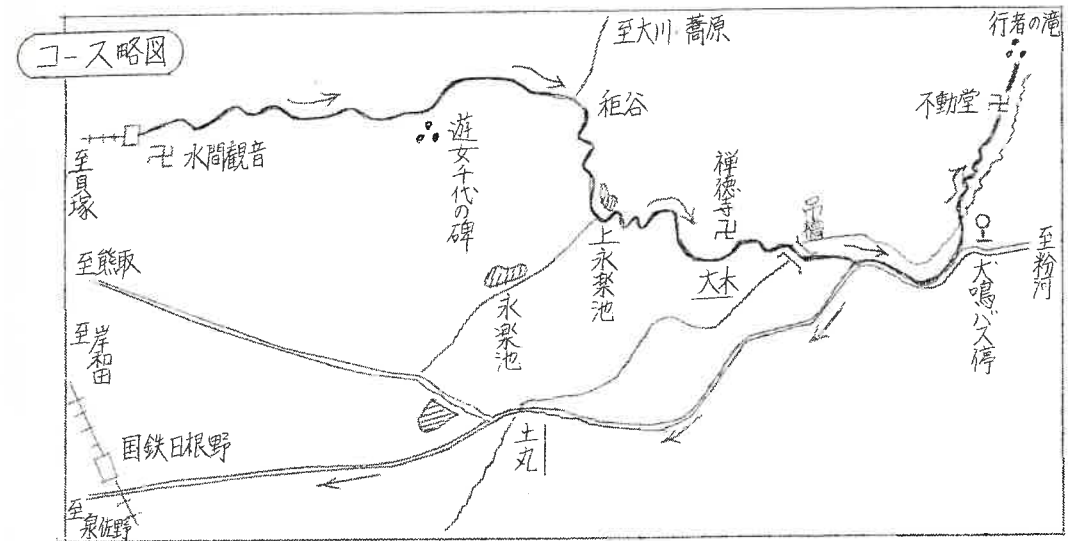
遊女の碑の紅葉の下で小憩。後から田尻町子供会一行到着、ピチピチしたノ年から8年生まで、若いお母さん達を入れ総勢130名、活気溢れ躍動している。大川の少年自然の家に行く由、暫し交歓。

土永楽池を左折、山を抜け大木町に入る。集落あげて田植の真最中。山腹の禅徳寺で小憩、眺の頗るよし、裏山から吊橋を渡り犬鳴へ。

不動堂の下は様相一変、舞台のような広い休憩所が出来ている。正面にはお不動さんや行者の立像が並び護摩壇もある。諸行事が取行われるのであろう、4月末落慶の由。14.40犬鳴バス停着、帰路につく。

参加者

福永、大木、村上(幸)、坂森、加地(求)、内田、金田、加地(行)、古久保、佐竹、中西、安浪、高島、村上、大居、清水、信田、北沢、山本(光)、長束、諸節 他1名



(Cチーム 中西記)

第128回例会 昭和60年6月23日(日)

天候・気温 曇時々雨 27℃

◎ 行先 平井峠越え 7km 担当チーム A

◎ 参加人員 12名

◎ コース 南海岸和田駅 ——— 孝子駅 ——— 高仙寺 ——— 平井峠 ——— 蓮乗寺 ——— 紀の川駅

○ 行程記録

8.02 南海岸和田駅

11.35 蓮乗寺出発

8.33 孝子駅

11.55 紀の川駅

8.55 高仙寺 30分休憩

10.10 平井峠

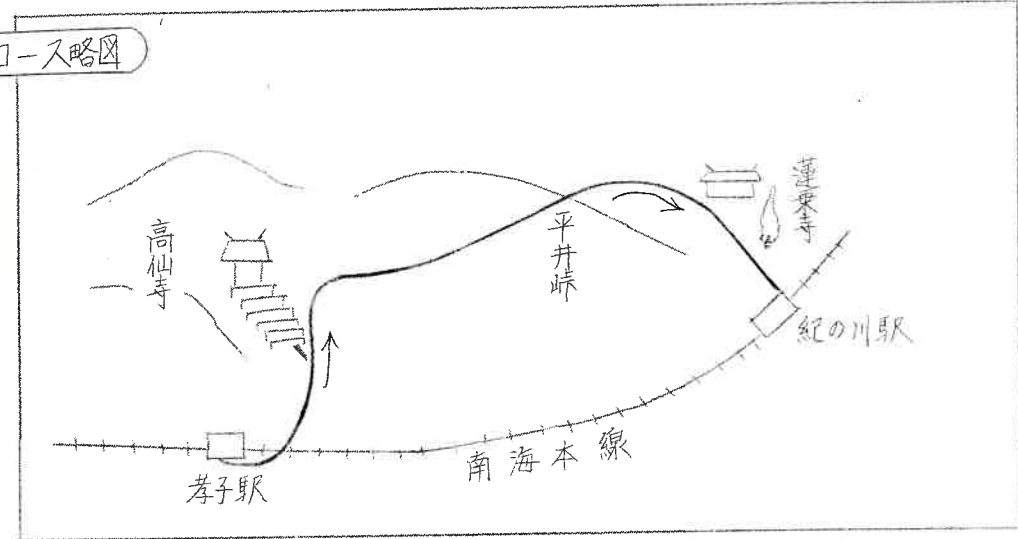
10.45 蓮乗寺 昼食

記 事

雨が予想される状況下で決行された第128回例会の圧巻は、沛然と降る雨の平井峠越えであった。「えより平井峠」の道標を右に見て数分後、ホツリホツリの雨がだんだんと強くなり、雷鳴を耳にした頃はまるで川と化した木下闇の細道を覆う草木に下半身びしょ濡れになっていた。一行12名、さすが12名、腹を据えての峠越えはたしかに絵になると思った。峠を下った頃から青空がのぞいた。蓮乗寺での昼食は寺縁で楽しく。行程を雨で変更したため紀の川駅到着は11.55、ホームで解散。ようこそ参加して下さった12名の方へ謹んで「歩キテ」の称号をお贈りいたします、ハハハ----

参加者 浅野、宮内、大北、阪森、田良原、内田、金田、古林、水谷(-)、清水、長束、諸節

コース略図



(Aチーム 金田記)

第129回例会 昭和60年7月14日(土)
 天候・気温 曇後晴 31℃

- ◎ 行先 深日——淡輪 約9km 担当チーム B
- ◎ 参加人員 26名
- ◎ コース 岸和田駅——みさき公園駅——国玉神社——深日行宮跡——化石寺——淡輪遊園——淡輪

○ 行程記録

8.02 岸和田駅発	11.25 淡輪遊園 昼食
8.27 みさき公園駅 10分間休憩	12.30 出発
9.00 国玉神社 15分間休憩	12.55 淡輪駅
9.20 深日行宮跡	
9.30 化石寺 15分間休憩	

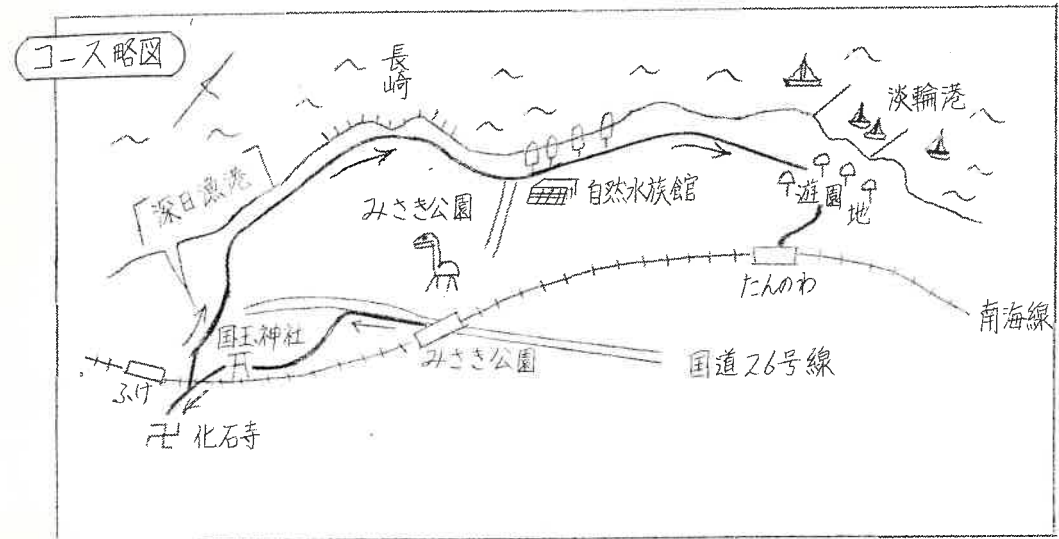
記 事

みさき公園から国玉神社への、深日町から多奈川一帯を眼下に眺めながらの高台の道。深日港から淡輪への府下唯一の岩礁地帯の水際コースと、楽しみ十分のいい「コース」である。

この海沿いの道、梅雨明けの日曜とあって、釣りや泳ぎを楽しむ家族連れが目をはいた。奈良の車も。

淡輪遊園の涼しい空屋台を拝借、ヨットハーバーを見下ろして昼食。沢山のヨットが港外の波の上を舞うようにゆきまわっている。ゆっくり休憩の後、炎天の道を淡輪駅へ。

参加者 大木、福永、宮内、村上、森、大北、加地(未)、阪森、松本、田良原、井上、内田、金田、加地、北口、古又保、安浪、高島、村上、森(富)、八野、八野(綾)、信田、北沢、長束 諸節



(Bチーム 諸節記)

例会外 東海道自然歩道 ⑤ 昭和60年7月28日(日)

天気・気温 晴 32°C

◎ 行先 鞍馬 — 大原 約 11km 担当チーム C

◎ 参加人員 7名

◎ コース 岸和田駅 — 京都三條 — 出町柳 — 鞍馬 — 薬王坂 — 静原 — 江文峠 — 江文神社 — 寂光院 — 大原バス停

○ 行程記録

7.10 岸和田駅発
7.38 ナンバ
8.03 淀屋橋京阪
8.46 京阪三條
9.32 出町柳発
10.05 鞍馬
10.40 階段道 休憩10分

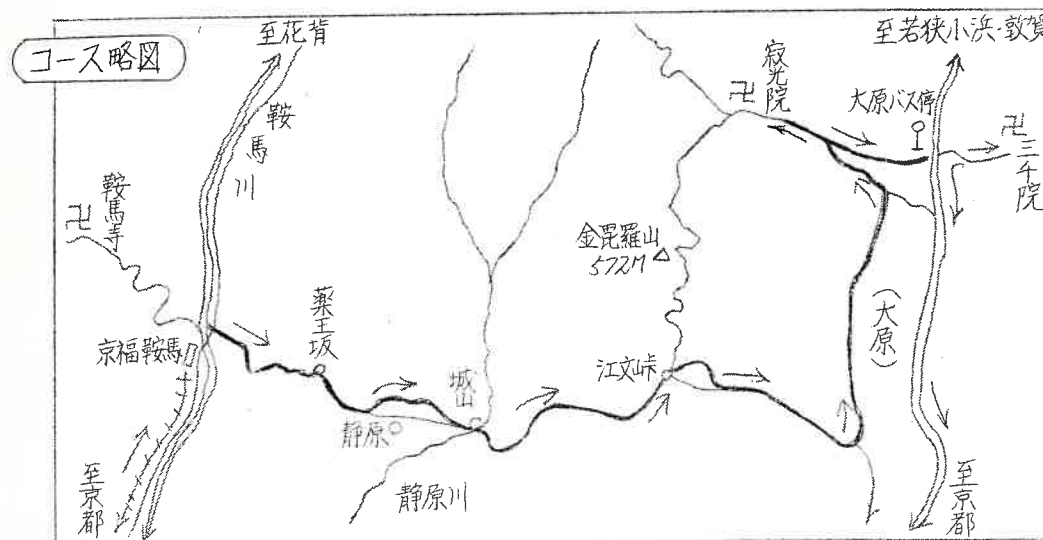
11.15 薬王坂 昼食60分
12.55 休憩15分
13.25 少憩
14.05 江文神社 休憩20分
15.30 寂光院 休憩15分
16.05 大原バス停 解散

記 事

小人数のせいもあるが、ナンバ到着から京阪特急乗車まであざやかな行動を展開した一行は、特急車内でひと休み。山沿いを走る京福鞍馬電の自然風は仲又快適である。駅前では点呼、今日は暑いのでマイペースで話しておいたが、薬王坂はいきなり階段道で目が覚めた思い。森林浴をしながら早目の昼食。

ここまでは良い。坂を降りてから天日を背に受けての暑中行進である。休憩の回数をおやす。江文峠の清流は心地よく冷たい。江文神社は立木に囲まれ休憩20分は短い程であった。おかげで寂光院到着がおくれ閉門15:00を過ぎていて残念。大原バス停で解散。第一陣8名は19:00、三平院を拝観した9名は20:00岸和田駅に帰着した。

参加者 宮内、大北、阪森、田原、井上、金田、北口、佐竹、安浪、坂部、高島、村上、水谷(-)、清水、信田、長束、他7名



(チーム代金田)

第130回 例会 昭和60年9月8日(日)

天候・気温 晴

◎ 行先 黒鳥公園 — 葛葉稲荷 約10km 担当チーム C

◎ 参加人員 25名

◎ コース 岸和田駅前 バス 摩湯 — 観音寺 — 黒鳥公園 —
— 聖神社(中食) — 葛葉稲荷 — (解散)

○ 行程記録

8.19 岸和田駅前発

8.50 摩湯着

9.20 観音寺 (15分間休憩)

9.40 成福寺 (10分間休憩)

10.08 黒鳥公園 (20分間休憩)

11.30 聖神社(中食1時間)

12.55 葛葉稲荷 ~

13.10 解散

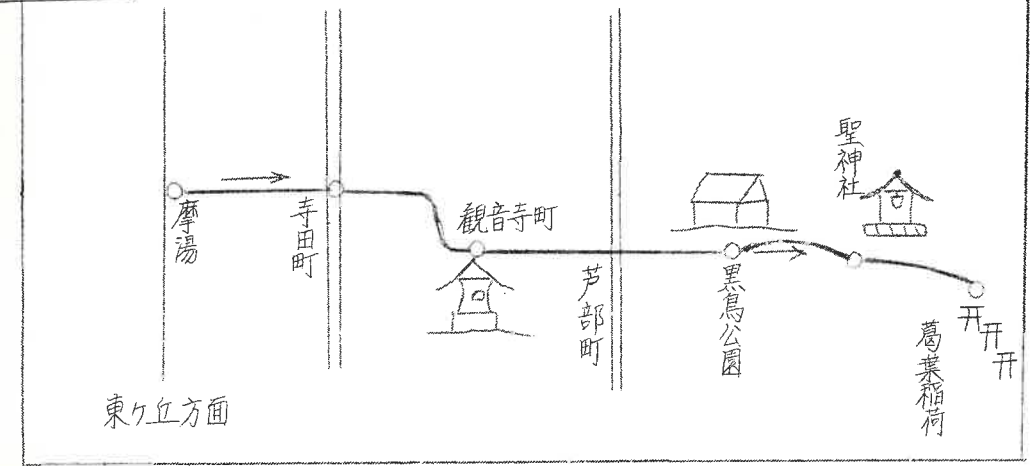
記 事

摩湯でバスを降り、寺田町を横切って、和泉西国20番札所の観音寺へ。落雷の楠大樹に目を見張り、きれいな小川にそって600年の歴史をもつ大蘇鉄の成福寺に立寄り、ゆるやかな斜面を登り、黒鳥公園へ。白露とは曆の上の事で、厳しい残暑のもと町内会の家族運動会の真ただ中。木陰の小休止もほとんどに大阪市ほか自治体の施設の散在する中を聖神社に。豊かな神域で中食をすませ、参道沿いの横穴式石室をかいま見て葛葉稲荷へ。記念撮影の後解散。

参加者

諸節、長束、山本(光)、北沢、信田、水谷、中野、古林、村上(彦)、高島、坂部、安浪、古久保、北口、加地(行)、金田、内田、田良原、十和、阪森、加地(求)、村上(幸)、宮内、大木、浅野

コース略図



(チーム 中野記)

第131回例会 昭和60年9月22日(日)
 天候・気温 曇一時雨 23°C

- ◎ 行先 東海道自然歩道 ⑧ 清滝渓谷 約10km 担当チーム C
- ◎ 参加人員 24名
- ◎ コース 岸和田——嵐山——嵯峨野——落合——清滝——高雄——
 ——柘尾——四条大宮——岸和田

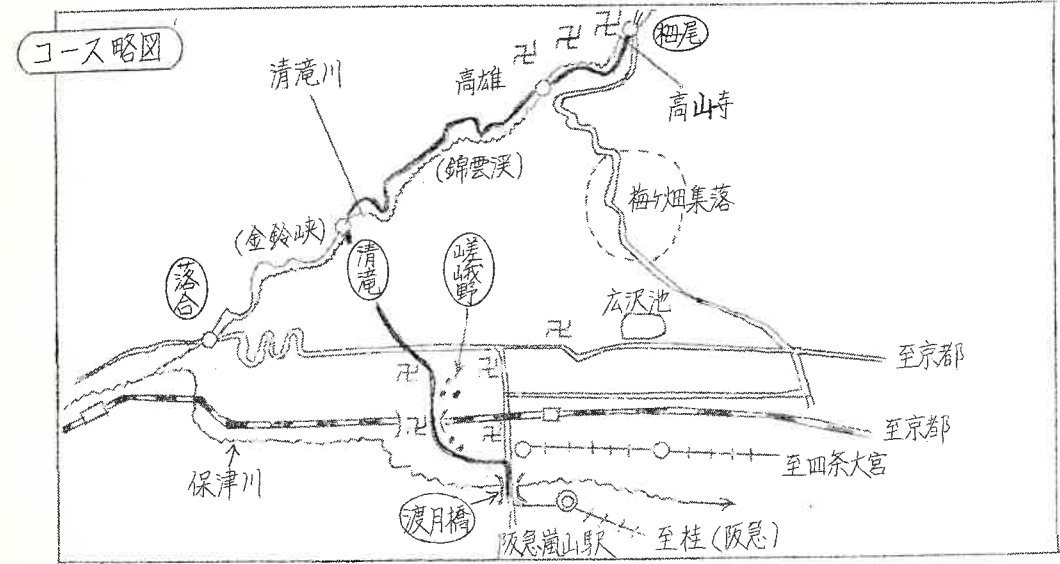
○ 行程記録

7.05 南海岸和田 出発	14.00 高雄 (大休止, 喫茶室)
9.15 阪急嵐山 (点呼)	14.30 出発
10.20 鳥居本 (小憩)	14.50 柘尾 (高山寺拜観)
11.00 落合 (〃)	15.50 出発 (国鉄バス)
11.40 清滝 昼食	四条大宮経由
12.45 出発	18.15 岸和田着 解散

記 事

嵐山で点呼。男子14名, 女性10名, 計24名。
 渡月橋, 龜山公園を経て嵯峨野へ。さすが風雅なたたずまい。鳥居本で雨、雨具に身を固め六丁峠を越え金鈴峡に入る。山深く、水清く、霧立ち、墨画のような谿。清滝で昼食、4名はここより京都直行。雨小止み、高雄へ。
 錦雲溪を行く。杉、檜の美林。清流続く。高雄着—喫茶室占領。コーヒの味格別。雨の踏破に話はずみ和気あいあい、雨止む。
 衆議一決、最終コースを行く。柘尾高山寺着。ここまで来ると京も奥、幽寂なり。国宝石水院拜観、15.50柘尾発国鉄バスで帰路に。
 雨中踏破12km全員元気で18.15岸和田着、先発組も無事帰岸。

参加者 浅野、杉原、宮内、村上(幸)、赤塚、坂森、田良原、金田、北口、古久保、崎田、安浪、中西、坂部、村上(彦)、森(富)、古林、中野、清水、山本、長束、諸節、外2名



(Cチーム 中西記)

第132回例会 昭和60年10月13日

天候・気温 晴一時雨 30℃

◎ 行先 高野山 約11km 担当チーム A

◎ 参加人員 スズ名

◎ コース 岸和田駅—ナンバ—高野山—奥の院前—摩尼山—
—楊柳山—うぐいす谷—女人堂—極楽橋—岸和田

○ 行程記録

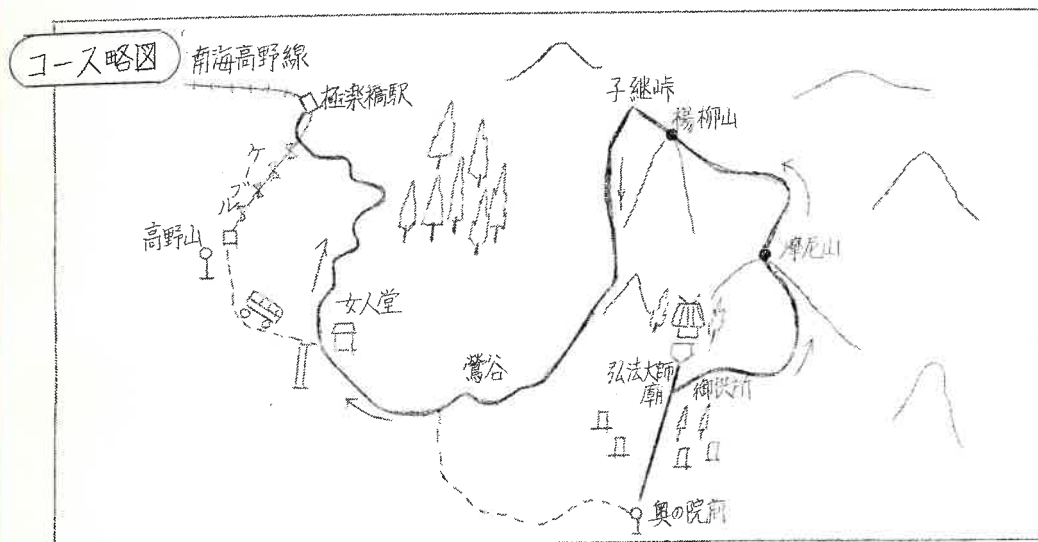
7.23 岸和田	13.35 子継峠
8.00 ナンバ	14.05 車道三叉路前で休憩10分
9.43 高野山	15.05 高野町雨で小憩
10.03 奥の院前	15.20 女人堂
10.50 奥の院出発	16.03 極楽橋
11.08 摩尼峠休憩8分	16.14 発車
11.30 摩尼山頂 昼食休憩55分	18.30 岸和田
13.00 楊柳山 休憩20分	

記 事

あるいは雨かと心配していたが、出発はうって変わった快晴。日頃の精進のほどがうかがえるというもの。満員のバスを奥の院前で降り、トイレ休憩、点呼。墓苑を抜けて参拝、不動さんに思いきり水をかける。シャツ1枚で歩ける暖かさが有難い。摩尼山の胸つき坂はきつい。山頂で早目に昼食休憩し楊柳山登頂に備える。高野の木が生々とした感じが良い。爽快な尾根をつたい、楊柳山の急坂も乗り切った。

高野警察前あたりからほつりほつり、間もなく沛然たる雨となり、とあるガレージに待避。小雨となって女人堂から不動坂へ予定通りの行程、思ったよりも早く極楽橋についた。振り返ってみて、杉の葉の降る奥の院の雰囲気、摩尼山、楊柳山の急坂に挑むメンバーの熱気がどい一人と胸に残る。

参加者 大木、宮内、村上(幸)、加地(栄)、阪森、十和、内田、金田、加地(行)、北口、古久保、安浪、村上(彦)、森、八野(綾)、八野(昇)、中野、清水、矢野、北沢、長束、諸節



(Aチーム 金田記)

第133回例会 昭和60年10月27日(日)
 天気: 気温 晴 20℃

- ◎ 行先 葛城登山 約11km 担当チーム B
- ◎ 参加人員 17名
- ◎ コース 岸和田駅 バス 牛滝山 — カシ平 — 花のタワー — 大石の峰 — 一等三角点 — 葛城山頂 — 塔原 バス 岸和田

○ 行程記録

7.30 岸和田駅前バス発車	11.30 一等三角点 10分間休憩
8.20 牛滝山 10分間休憩	12.00 葛城山頂 昼食
9.10 カシ平 15分間休憩	13.00 出発
二の間道中 10分間2回休憩	13.45 ビワ高原 15分間休憩
10.30 花のタワー 10分間休憩	14.30 塔原
10.55 大石の峰 10分間休憩	14.51 バス発車

記 事

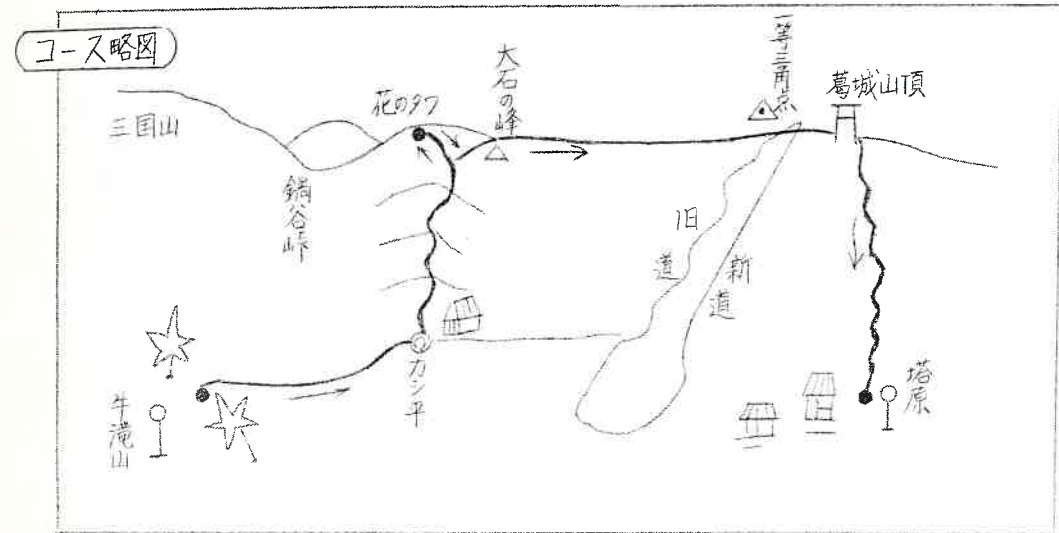
快晴、適温、程よい風と条件よく、全く恵まれた天候であった。

例年の「コース」を変えて、カシ平から小さな流れを渡り直ぐ枝尾根に登る。ここから葛城山頂までは殆んど尾根依りである。急な登りと思えば先ず一服。登り終えればまた休憩。そして花のタワーからの「下り1分登り10分」の急坂を登り切つて、860mの大石の峰に出た時はほっとした。

この「コース」我われ仲間にはきついと思ひ、出発時間を早め、その分休憩時間を十分にとった。そのせいか皆さんつかれたようすもなく葛城山頂に着く。山頂で昼食。出発前、例によって長東さんに詩吟をお願いする。今日は蘇東坡の「中秋の月」近くの他のグループから大きな拍手。

塔原からのバスは貸切り同様であった。

参加者 大木、杉原、宮内、阪森、田良原、金田、安浪、高島、村上、八野、八野(綾)、古林、中野、永谷、北沢、長東、諸節



(B4-4 諸節記)

第ノ34回 例会 昭和60年11月10日(日)

天候・気温 雨後曇 16℃

◎ 行先 大野あみだ寺 約11km 担当チーム C

◎ 参加人員 16名

◎ コース 岸和田駅 バス 上大沢 —— 春木川 —— 父鬼 ——
—— 大野あみだ寺 —— 久井 —— 積川神社

○ 行程記録

8.40 岸和田駅

9.25 上大沢

10.20 父鬼(途中10分間休憩)

10.50 あみだ寺(昼食)

12.00 出発

12.50 久井(10分間休憩)

13.45 積川(途中10分間休憩)

13.48 バス発車

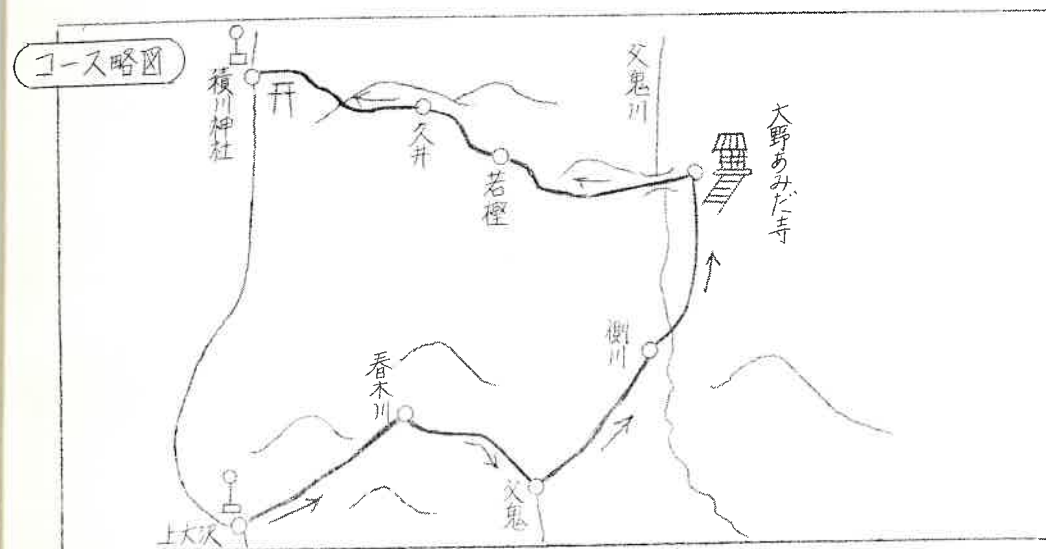
記 事

天気予報が外れて、上大沢へのバスの中で雨が降って来たが、幸い小雨。参加者は16名と少人数であったが、一同元気に目的地へ向う。

途中雨に洗われたハゼ紅葉が一段とあざやかで目を楽しませてくれる。順調なピッチで春木川、父鬼を経て大野あみだ寺到着。心配していた雨も殆んど止み、山の冷気が汗ばんだ肌に心持よい。住職の好意でストーブのあった温い座敷で歓談しながら昼食。

出発時には雨は完全に上り、みかん畑の中の急坂を上り切ると目の前に和泉平野が開け、六甲の山なみが望見される。久井から積川への行程は、諸節さんでないと解らない道なき道を通って、予定より早く積川神社へ到着。11kmの行程で適当に起伏もあり良いコースであったが、参加者一同大変元気でまだまだ歩き足りない様子であった。

参加者 大木、杉原、宮内、村上、阪森、十和、田良原、金田、北口、安浪、八野、八野(綾)、古林、北沢、長束、諸節



(Cチーム 宮内記)

第135回 例会 昭和60年12月8日(日)

天候・気温 雨時々曇 12°C

◎ 行先 泉佐野名所巡り 約12km 担当チーム B

◎ 参加人員 11名

◎ コース 岸和田駅——吉見の里駅——塙園右エ門の墓——蟻通神社——意賀美神社——ゴルフ場——日根神社——東上バス——泉佐野

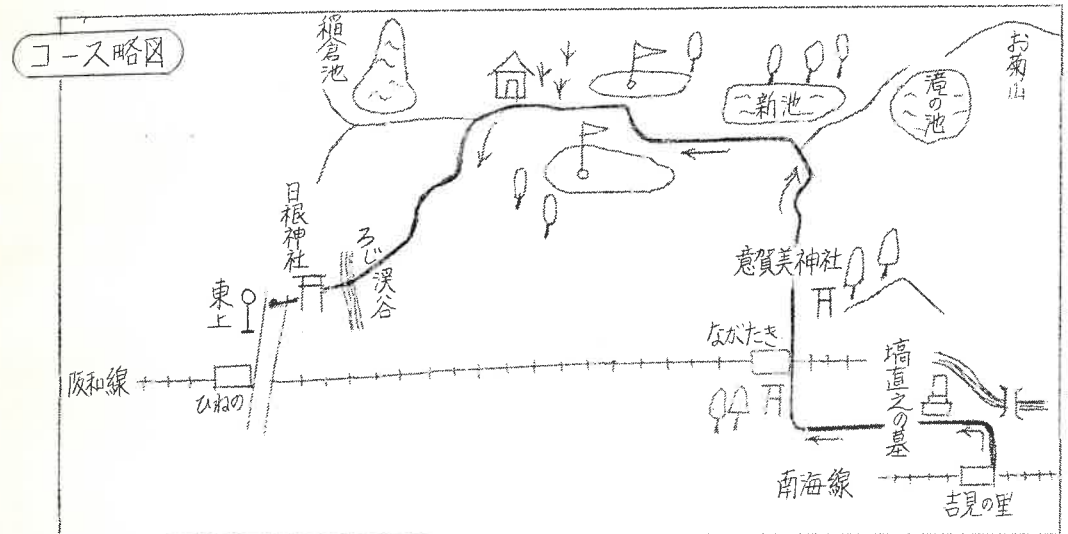
○ 行程記録

8.33 岸和田駅発(急)	11.30 ゴルフ場 10分間休憩
9.00 吉見の里駅	12.30 日根神社 昼食
9.15 塙園右エ門の墓	13.28 バス発車
9.40 蟻通神社 10分間休憩	
10.25 意賀美神社 10分間休憩	

記事

出発時から怪しい空模様だったが、結局、雨中の決行となってしまった。そのため予定を変更。茅渚宮跡、滝の池は立ち寄らず、また稲倉ダム廻りの「コース」もやめ、クラブハウス前から、別所谷をぬけ母山を通り、日根神社に着き昼食とした。雨のせいで東上からのバス乗車は予定より1時間も早かった。

参加者 大木、杉原、宮内、阪森、田良原、金田、奥、村上、北沢、長束、諸節



(Bチーム 諸節記)

第136回例会 昭和60年12月22日(日)

天気・気温 曇 9℃

◎ 行先 松尾寺 9km 担当チーム C

◎ 参加人員 34名

◎ コース 岸和田駅前 バス 福田 —— 菅原神社 —— 春木町 ——
—— 松尾寺 —— 稲葉バス停 バス 岸和田駅前

○ 行程記録

8.35 岸和田駅前	15.00 松尾寺出発
9.00 福田 15分休憩	15.40 稲葉バス停
10.15 菅原神社 10分休憩	15.50 発
11.20 松尾寺 会食	16.30 岸和田着 解散

記 事

本年度の納会、福田で勢揃い、34名、設営隊は別路先発。

神於山登山口より後線の間道に入り、枯草道を一列になり進む。たわわに成ったみかんの木が最後の取入れを待っている。右も左も見渡す限りの冬景色、一味違う美しい眺望である。

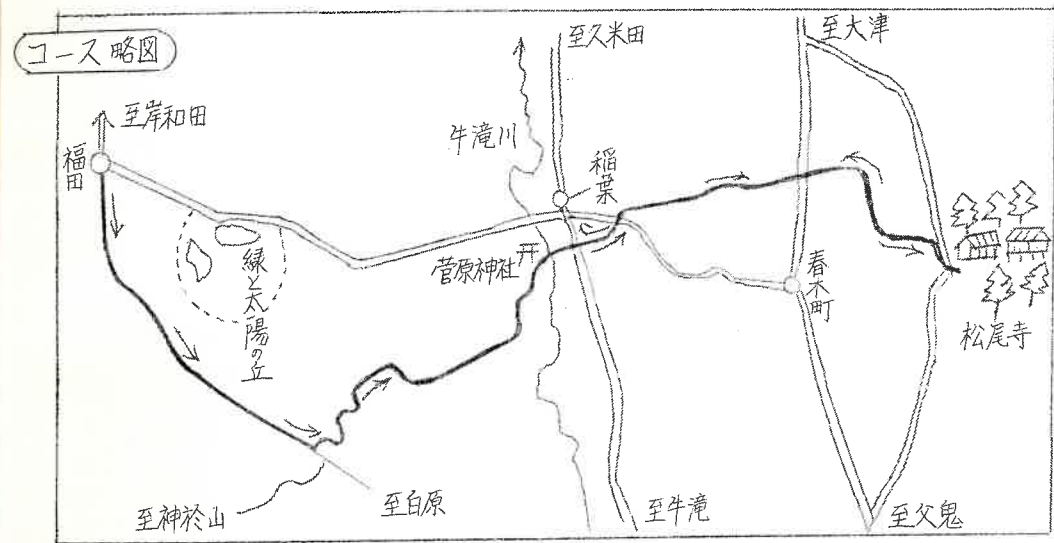
稲葉丘陵に掛ると、片側の檜、みかんがドンドン切り倒されている。和泉市より来る幹線道路が空港関連で通るとのこと、痛ましい。

お寺で住職の法話を聞く。さすがいいお話。会食、米沢さんの音頭で乾杯。名物の釜のしが美味い。歌が出る。ダンスが始まる。和やかな一時。

15時松尾寺出発、稲葉よりバス。無事納会を終る。

参加者

杉原、村上(幸)、森(信)、赤塚、加地(球)、十和、田良原、内田、
金田、加地(行)、北口、古久保、崎田、佐竹、安瀬、福本、坂部、
高島、水谷(隆)、村上(考)、森(富)、奥(源)、古江、古林、久保、
中野、水谷(-)、米沢、矢野(今)、北沢、長束、諸節、宮内、中西



(Cチーム 中西記)

<補遺>

◎ 諸節さん司会:

折角の機会と会員皆さんの提言を求めた所、次々と貴重な意見が出て、今後の運営に大きい収穫を得た。

第137回例会 昭和61年1月12日(日)
天候・気温 晴 7°C

◎ 行先 水間寺 約9km 担当チーム A

◎ 参加人員 31名

◎ コース 福祉センター——流木——三ヶ山——水間寺

○ 行程記録

8.05 福祉センター出発

8.55 流木 15分休憩

9.45 ホテル山付近 5分休憩

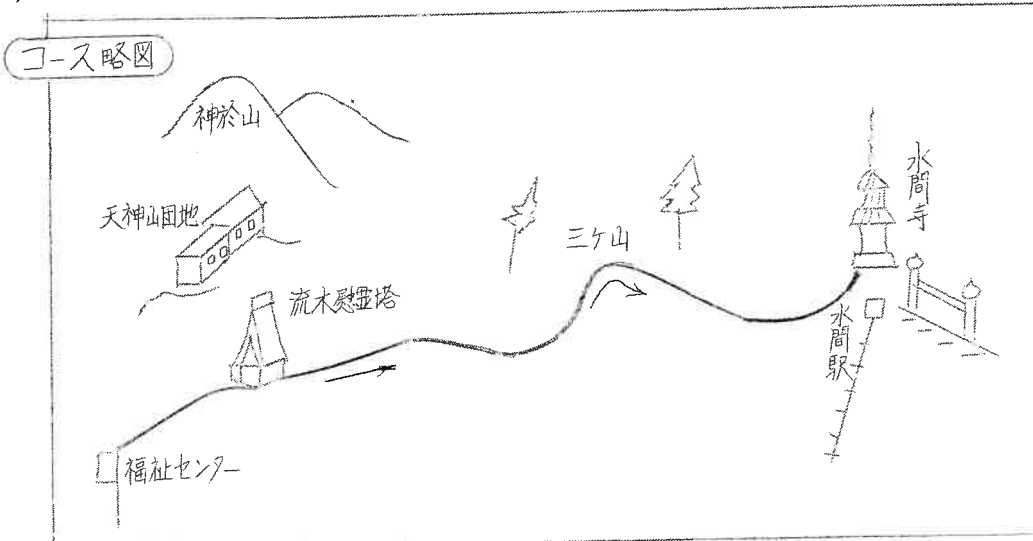
11.00 水間寺 解散

記 事

この二、三日、大変寒い日がつづいたが、今日はどうって疲った絶好の歩こう会日和となって、メンバーも気持ちよく初歩きを楽しんでいるように見受けられた。

流木で1名合流、岸貝境界線、三ヶ山と殆んどが山道。足の感触が非常に良い。身軽であるが汗ばむ程だ。三ヶ山町を通り抜け水間寺に着いたのは丁度11:00。出店が並び日曜日のにぎわいの中で記念撮影を行い解散。

参加者 大木、杉原、大北、加地(球)、川崎、阪森、十和、藤原、田良原、井上、内田、金田、加地(行)、北口、古久保、安浪、奥、高島、村上、森、八野(緩)、八野(昇)、久保、中野、信田、北沢、太地、山本(光)、諸節、外又名



(Aチーム 金田記)

第138回例会 昭和61年1月26日(日)

天候・気温 晴時々曇 8°C

◎ 行先 阿間が滝—泉光寺 約1.2km 担当チーム B

◎ 参加人員 27名

◎ コース センター—流木慰霊塔—阿間が滝—グリーンハイツ—泉光寺—センター

○ 行程記録

8.00 センター

9.00 流木慰霊塔 10分間休憩

9.50 阿間滝丘の上 5分間休憩

10.10 奥家前ムフの大木 10分間休憩

10.55 グリーンハイツ

11.15 泉光寺 10分間休憩

12.10 センター前

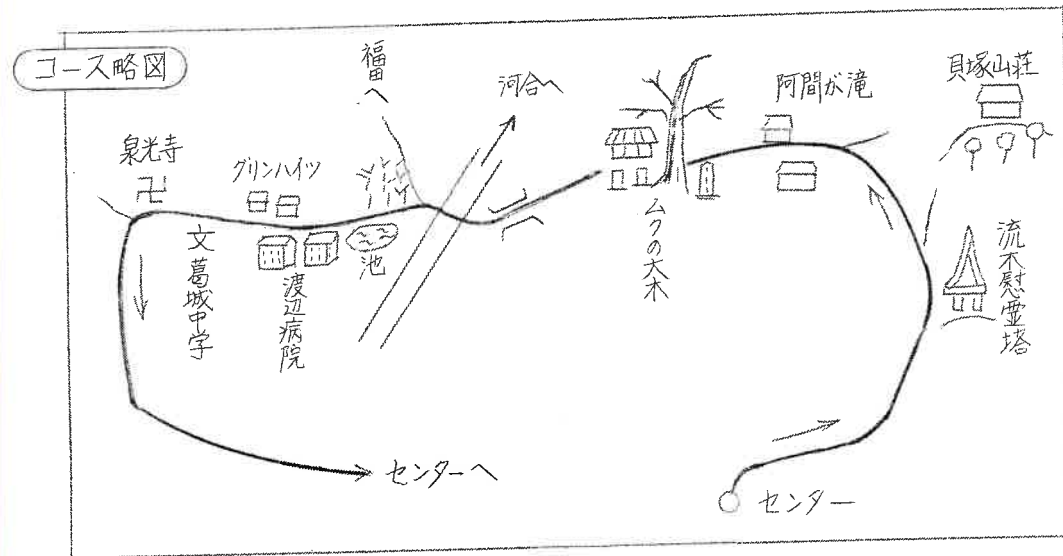
記 事

歩く程に次第に寒さもゆるみ、歩度を速めるには程よい気温。

以前このコース一度歩いている。第28回例会で昭和55年1月27日(気温8°C)参加者26名は今日となんとよく似たことか。そしてその時の参加者で今日も一緒に歩く仲間6名。

阿間が滝、奥家の前のムフの大木(天然記念物)をバックに、あの日と同じく山本さんに記念の写真を願います。

参加者 大木、杉原、宮内、村上、赤塚、大北、阪森、十和、松本、藤原、田良原、金田、西出、安浪、福本、奥(源)、古林、中野、水谷(-)、信田、矢野、北沢、太地、山本(光)、長束、諸節、外1名



(Bチーム 諸節記)

第139回例会 昭和61年2月9日(日)

天候・気温 晴-時小雪 5℃

◎ 行先 兩山城趾 約11km 担当子-ム C

◎ 参加人員 22名

◎ コース 泉佐野 バス 土丸 —— 土丸城趾 —— 兩山 ——
—— 成合 —— 下高田 —— 馬場 —— 水間寺

○ 行程記録

8.15 南海岸和田駅

8.30 泉佐野駅

8.55 土丸

9.50 土丸城趾 (休憩10分間)

10.30 兩山 (休憩10分間)

11.00 成合

11.40 下高田

12.10 馬場

12.30 水間寺 解散

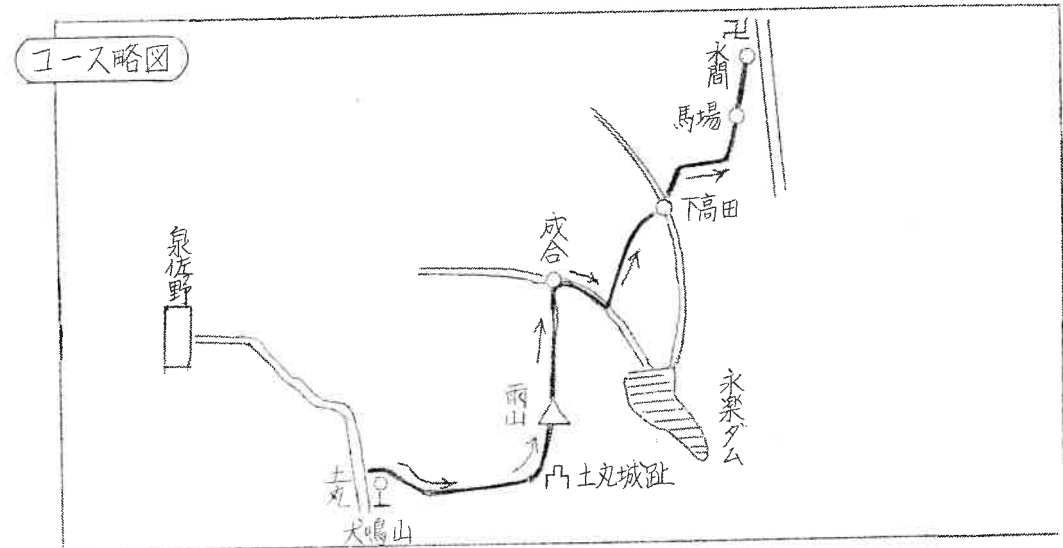
記 事

気温は5度と厳しい寒さであったが、晴天の上、風もなく絶好のハイキング日和。標高315mの小さな山であるが、急な登り道であるので時間をかけてゆっくりしたペースで登る。眼下には和泉平野が一望の下に開けすばらしい眺望である。

兩山出発の頃より少し風が冷たくなり小雪がちらついて来る。案内役の不手際で、成合では予定より30分近い遅れとなったので、予定の永楽ダムへは回らず下高田へ直行。

水間寺へは17時30分到着。解散。

参加者 大木、杉原、宮内、加地(求)、川崎、阪森、藤原、田良原、内田、
金田、加地(行)、安浪、高島、森、八野(綾)、八野(昇)、水谷、信田、
北沢、大地、諸節、外1名



(Cチーム 宮内記)

第140回例会 昭和61年2月23日(日)

天候・気温 晴 10℃

◎ 行先 河合 約8km 担当チーム A

◎ 参加人員 28名

◎ コース 福祉センター — 流木 — 貝塚山荘 — 河合

○ 行程記録

8.00 福祉センター出発

9.00 流木 10分間休憩

10.00 貝塚山荘 35分間休憩 記念撮影

10.55 河合ミカン山 10分間休憩

11.10 船渡バス停 解散

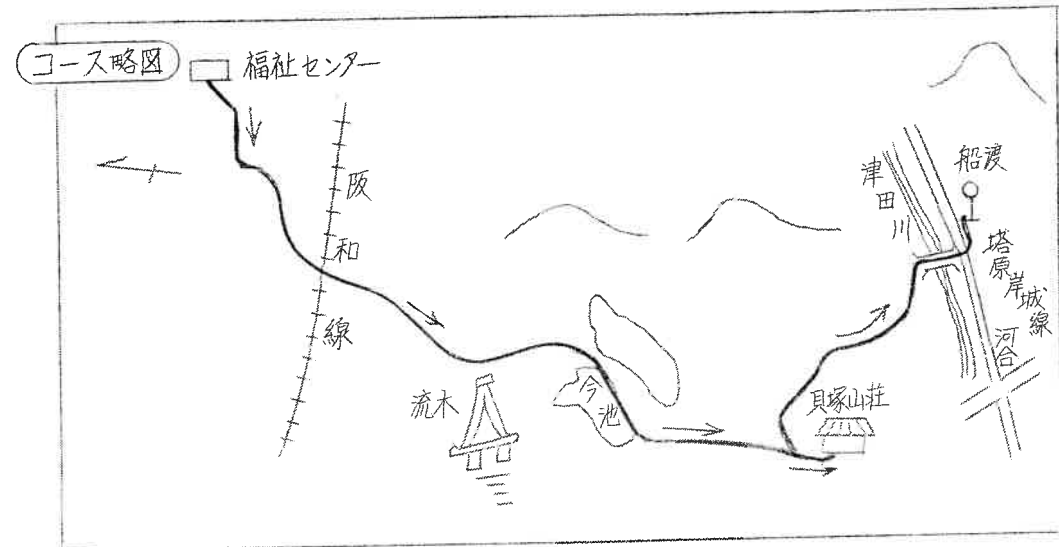
記事

例会当日が今日のように晴れあがった好天気だとほんとうに良い気分になる。メンバーの中には寒さを予想してか厚着で来た人もあったようで、流木での休憩中、一度はいでいる人も目についた。

墓苑を抜け今池から舗装路にさよならする。ミカン山に入り峙に立つと山荘は目の前。ロビーでタッパリ休憩して、中庭で竹をバックに記念撮影。カメラマンは例によって山本さんである。

ここから河合への道は圧巻で、峠を登りきると急に眼下に津田川と塔原岸城線が俯瞰出来る。高所恐怖症気味の老人には気の毒なくらい。慎重に下り途中で一歩く。長束さんの詩吟、諸節、松本さんの黒田節を聞いてから、船渡バス停で解散。

参加者 大木、杉原、宮内、阪森、松本、藤原、田良原、井上、内田、金田、北口、安浪、奥、高島、村上、森、古林、久保、中野、米澤、信田、矢野、北沢、太地、山本(光)、長束、諸節、外ノ名



(Aチーム 金田記)

第14/回例会 昭和61年3月9日(日)

天候・気温 晴 16℃

◎ 行先 金熊寺 約7.1km 担当チーム C

◎ 参加人員 28人

◎ コース 東岸和田 ——— 山中溪 ——— 境谷 ——— 槌ノ子峠 ——— 楠畑 ——— 金熊寺

○ 行程記録

8.39 東岸和田	10.45 槌ノ子峠出発
9.10 山中溪	11.20 楠畑通過
9.20 " 出発	12.25 金熊寺 昼食
9.55 境谷	13.50 解散
10.30 槌ノ子峠	

記 事

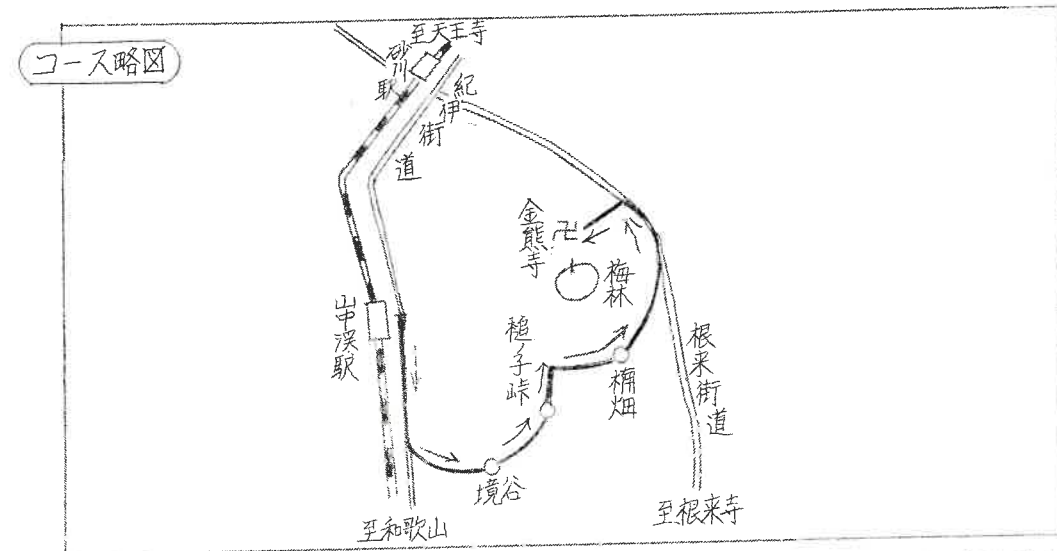
厳冬から一足飛びの春。歩こう会も参加28人と盛会。

境谷に到着する頃は全員汗ばむ陽気で、峠への登りに備えて全員上着を脱ぎ、槌ノ子峠へ向う。参加者は毎回参加の顔なじみが多いので、よもやまの話しをしながら意外に早く峠の上に着く。全員極めて元気。

楠畑を過ぎて根来街道の手前で最後の少休止。諸節さんより3月末で退学されることについてご挨拶あり。参加者全員より何とか歩こう会に出席してもらえよう願います。

金熊寺には予定とおり到着。寒さが厳しかったため梅林もちらほら咲であったが、暖風の中で観梅の気分を味わいながら昼食。金熊寺参詣後解散。楽しい一日であった。

参加者 大木、宮内、村上(幸)、加地(求)、阪森、松本、藤原、田良原、井上、内田、金田、加地(行)、北口、佐竹、安浪、福本、村上(文)、八野(綾)、八野(昇)、古林、中野、水谷、米沢、信田、矢野、北沢、奥、諸節



(C4-6 宮内記)

健 步 証

昭和61年3月9日(第141回例会)の時点における該当者

Km	氏 名	初参加例会	達成例会
1400	諸 節 光 吉	第 1 回	第141回
1100	山 本 光 男	第 1 回	第140回
1000	北 沢 玄次郎	第 1 回	第133回
900	奥 芳太郎	第 1 回	第117回
"	長 束 正 安	"	第140回
"	久 保 礼 子	第 36 回	第140回
"	太 地 稔	第 1 回	第140回
800	尾 崎 秀 男	第 1 回	第109回
"	中 野 伊之助	第 37 回	第136回
700	清 水 信 代	第 19 回	第121回
"	山 本 松 子	第 1 回	第 88 回
"	坂 根 善 七	"	第100回
"	木 下 二三郎	第 24 回	第116回
"	信 田 育久子	第 21 回	第123回
"	水 谷 一 男	第 36 回	第139回
600	鈴 木 喜 七	第 1 回	第 79 回
"	山 本 覚	第 34 回	第119回
500	乃 村 新之丞	第 1 回	第102回
"	吉 田 環	"	第108回
"	小 国 美子代	第 55 回	第117回
"	八 野 綾 子	第 75 回	第132回
"	古 林 藤 一 郎	第 55 回	第134回
"	金 田 定 之	第 89 回	第137回
"	米 沢 安 一 郎	第 37 回	第141回

Km	氏 名	初参加例会	達成例会
300	大 場 辰 一	第 1 回	第 37 回
"	広 瀬 一七三	"	第 58 回
"	石 原 由 り	"	第 59 回
"	神 於 清	"	第 63 回
"	古 江 年太郎	第 56 回	第 95 回
"	奥 源次郎	第 76 回	第110回
"	八 野 昇 一	第 75 回	第112回
"	矢 野 子力工	第 55 回	第114回
"	水 谷 静 子	"	第118回
"	内 田 静 次	第 90 回	第121回
"	安 浪 佐和子	第 89 回	第125回
"	中 西 信 雄	第 90 回	第126回
"	佐 竹 竹 子	"	第127回
"	高 島 喜 代	第 91 回	第129回
"	北 口 喜 代 志	第 89 回	第130回
"	村 上 彦 文	"	第131回
"	水 谷 隆 一	第 74 回	第136回
"	阪 森 一 郎	第104回	第139回

会員有志〈随想〉

佐竹竹子 歩く事

杉原千代子 葛城登山

諸節光吉 自然の中へ

山本光男 昔懐しい

〈掲載・50音順〉

歩く事

佐竹竹子

昨年7月に、くらまから三千院のコースを歩いて3日後に、泉佐野の優人会病院へ入院した。

卵巣のう腫で、左右の卵巣と子宮を摘出した。術後の1週間はほんとの病人だから仕方がないが、その後は体が良くなるにつれ毎日ベッドの上にいるのが苦痛で、早く歩きたい、足が弱る、といういらした。会やクラブの人が見舞に来てくれて、いろいろと話を聞くとよけいに行きたくなる。

9月の7日に退院して、10月から行動開始しようと張りきっていたら、体調を悪くしてまた病院へ外来で通った。東海自然道のつづきの嵐山から清滝のコースはあきらめたが、清滝から大原のコースは行きたいと思った。先生に相談したら「10キロも歩くなんてもっての外」と叱られ、「年な人だから無理はするな。これから寒さに向かう折だから、春までは誘われても誘惑に負けるな」と言われたが、この二つのコースをはずしたことは残念に思う。

3月23日の、大原から叡山のコースは何とか行こうと思い、足ならしに金熊寺へ行った。天候にめぐまれ久しぶりに仲間と一緒に歩いて、元気に歩けることの有難さをしみじみ味わった。3月18日の修校日に、300キロを歩いた証に健歩証を頂き、今年出来るだけ出席したいと思う。それにつけても3月23日の雨は、再起の出鼻をくじかれたようで残念だった。

健歩証の記録を伸ばし、自分の足腰のバネも伸ばして大いに頑張りたい。

春の訪れにつづいて新緑の季節が来る。一年中で一番気候の良いこの時は、山歩きには最高の楽しみがある。若さと健康を守るためにも歩くことは良いことだ。歩けることは有難いことだ。

今年一年、元気で皆と付き合えることを祈っている。

葛城登山

杉原千代子

10月27日、葛城登山に参加したのは、歩こう会参加三回目でした。11kmは平地なら自信があるのだが、登山となると心配だった。

牛滝から山にかかった途端、我が身の重いのに驚いた。皆さんからどんどん遅れる。息苦しい。暑い。足が上がらない。落後しないかと焦る。でも当番の方が旗を持って必ず最後から来てくださるので安心でした。

すべる丸太橋では、手を支える方がついてくれるし、登れない所では引っ張り上げる役の方がついてくれる。そして「もう駄目……」と思う頃、不思議に必ず休憩の笛がなる。ホッとしてあたりを見まわせば、清々しい山の空気、重なる和泉の峰、日光も通さないような松の茂り、久しく見なかった自然の景色でした。

リーダーや皆さんから、このあたりの地形、昔の風習や、草花の話聞いた。かわいいせんぶり、げんのしょうこ、みやまさかさ等。深山榊は毒があると教えられなければ、一本摘みたくなるような赤い艶々した実をつけて群生している。休憩をくりかえして頂上についた。粉河町がはるかな下で光っている。芒、龍胆、女郎花の揺れる中で昼食。詩吟を拝聴。

帰りは余裕がでて、ワイワイガヤガヤ。「ひゃあー大きい松茸」「杉の木だから杉茸だ」「食べられるかな」「知らんもんには触らんことや」-----下山は賑なのに小石に足を取られて転びました。下りた所が塔原のバス停でした。

登り切ったという感激があふれました。リーダーに、皆さんに、感謝感謝の一日でした。いつか私も誰かを助けてあげたいと思いました。こんな爽快な歩こう会へ皆さん参加なさいませんか。

自然の中へ

諸節光吉

以前からのものを整理していて一枚の模造紙を見つけ、ひろげてみて赤や黒のマジックで紙いっぱい書かれた文字を眺めながら懐しく当時を思い浮かべた。

その席で皆さんおもしろいおもしろい名前をあげた。自然と共に。足まかせ。歩く。足あと。健脚のあと。ゆっくり歩こう。自然の中へ。太陽と共に。一年の歩み。朝日と共に。そろり一年。太陽を浴びて。歩みの友。自然をおとづれる。等々である。

投票に入り、まずス票以上あるものを残した。繰り返し投票。そしてその中から「足あと」と「自然の中へ」の二つに絞った。いよいよ決戦投票である。わいわいがやがや、ス票の差で「自然の中へ」に決定。

昭和54年5月27日、第16回例会、福田のだんじり屋さんの慈光苑の一室で、当日の参加者22名によって、書名はこうして決まったのである。その時の参加者で今も歩こう会に籍をおく者僅かに4名。時の流れのなんとさびしいことか。

61.3.27

昔懐しい

山本光男

60年度終講式のあと、11000キロの健歩証を買った。数えてみると、正味110回参加している。歩こう会が始まってから、もう8か年になろうとする。早いもんだなあ-----と、感無量。

昔のアルバムを出して見る。

石原ゆりさんが、若々しく、笑顔で写っている。いつも、自然の姿で。

年よりもずっと若く、新鮮な空気を発散出来る、個性のある人だった。

石原さんは、クラブ第1号の提唱者である。夏期のラジオ体操や神於山登山を呼びかけたりして、新鮮なアイディアを積極的に出す人で、好感の持てる人だった。

今は、山形県の天童市で、弟さんと元気に暮しておられるという。

◇ ◇ ◇ ◇

井上亀太郎さん、角谷三郎さん、松井衛さん、波田民子さん、上松房次郎さん、高垣一夫さんが元気な顔をして写っている。

今は、どなたも亡き人である。

井上亀太郎さんは、私や愚妻をよく可愛がってくれたものだ。いただいた、鈴のついたお守りを、今もずっと持って歩いている。

井上さんは、「自然の中へ」第1号に随筆を寄せられているが、「歩く神様」といっていい人で、私らの崇拜の的であった。

いつの歩こう会でも、静かに、トントンと自分のペースで、急がず、無理せず、野でも山でも、疲れをみじんも見せず、楽しんでおられた。

うしろから見ると、81歳とはとても見えない、小学生の遠足かと思われるほど、無邪気な歩き方をしておられたものだ。

今は、あの霊界で、私らを見守っていてくれるだろう。いずれは私も行って会えると楽しみだ。昔懐しい。

1986. 4. 4

昭和61年4月
岸和田健老大学
歩こう会